

年	組	名前
---	---	----

(左上から時計回りに) 3年ぶりの積雪に見舞われた大分市内。地震の影響で外壁が崩れた建物＝佐伯市。日照不足により、夏野菜が高騰＝大分市。国内で3年ぶりに観測された皆既月食＝同市 (写真はコラージュ)



大分の2014年の気象を振り返ってみましょう。

平野部でも積雪 未明に震度5弱 長雨で野菜高騰

県内は6月2日に平年より3日早く梅雨入り。その後、停滞する低気圧や前線が大雨を降らせ、南部や中部で月降水量が平年を上回った。蒲江で日降水量309.0mmを観測するなど、4地点で6月の観測史上最大を記録した。

8月には台風が2週連続で県内に近づいた。長雨による日照不足で野菜は高騰し、海水浴場や屋外型レジャー施設の客足は伸び悩んだ。記録的な暑さだった昨年とは打って変わり、冷夏に。8月の日田市の猛暑日数は1980年以来の「ゼロ」で終わり、7、8月の平均最高気温は平年を下回った。

10月には大型の台風18

山間部だけでなく平野部でも大雪が降った。春には震度5弱の地震が未明の静寂を破った。夏には雨が続き、日照不足で農業や観光業が打撃を受けた。猛烈な勢力に成長した台風が何度か県内をつかかったが、直撃は免れた。秋には3年ぶりとなる皆既月食も見られた。大分の今年の気象を振り返る。

県内の気象この1年

大雪 地震 日照不足

1月、気温が氷点下になった低気圧の影響で県内は大雪の日があったものの、平雪に見舞われ、一部集落が均気温はおおむね平年並み一時孤立するなど生活に大で、穏やかな1年の始まりきな影響を与えた。大分市となった。2月になると県内でも2011年以来となる波が襲来。13日には発達する積雪を観測。郊外の道路測し、住宅損壊や水道管破

では立ち往生した車を列を裂など被害が相次いだ。つづいた。JR各線が運転を見合わせ、駅は利用客らで混雑した。

3月14日未明には伊予灘を震源とする地震が発生。臼杵、国東などで震度5弱、大分市などでも震度4を観測し、住宅損壊や水道管破

号、一時猛烈な勢力となった19号が相次いで県内に接近。直撃はしなかったものの、交通網は乱れ、イベントは中止や延期になった。国内では3年ぶりに観測された「皆既月食」、県内でも赤銅色の月が見られた。その後、朝晩に冷え込むようになると、山や紅葉の名所で順調に色づきが進んだ。

山間部を中心に平野部でも雪が積もった12月17日、大分市で平年より4日早く初雪を観測。各地で雪かきや農作物の管理に追われ、由布市では1日を通して最高気温が0度未満の真冬日となった。さて、来年はどんな天気になるか？

(2014年12月29日朝刊21面)

①大分県内の梅雨入りはいつで、平年に比べ何日早かったでしょう。

③記事を使って、問題文を考えてみよう。

②10月に「皆既月食」が見られましたが、何年ぶりでしょう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....